



ほね かず おとな こ おな 骨の数は、大人も子どもも同じなの

ほね かず おとな こ 骨の数は、大人と子どもではちがう

にんげん ほね かず
人間の骨の数は、200とも206ともいわれています。このようにかず いてい
のは、ほね かず ひと ねんれい おとな こ
骨の数は、その人の年齢によってちがうからで、大人と子どもではちがうのです。

こ おとな ほね かず おお
子どもは、大人よりも骨の数が多いのですが、これは、こ
子どものころには、はなればなれ
になっていた骨が、おとな
大人になると、くっついて一つになっている場合があるためです。こし
にある骨ばんや、むね ちゅうおう きょうこつ てあし ほね
胸の中央にある胸骨や、手足の骨などがそうです。

そのため、にんげん ほね かず せいかく なんこ
人間の骨の数は、正確には何個ということではできません。ですから、およそ2
00こ
個くらいと、おぼ
覚えておくといいようです。

ほね 骨もどんどんつくりかえられている

ほね からだ ささ
骨は、わたしたちの体を支えるはたらきをしています。ほね かる
骨は、じょうぶで軽いもの
が、それは、なか
中がスポンジのようになっていて、こつ
骨ずいとよばれるやわらかいものが入
っているからです。こつ せつけっきゅう はつけっきゅう けつえき たいせつ せいぶん
骨ずいは、赤血球や白血球という、血液の大切な成分をつくっているところ
で、ほね たいせつ ぶぶん まも やくめ
骨は、その大切な部分を守る役目もしています。

そして、このかたい骨も、ほね ぶぶん おな さいぼう
ほかの部分と同じように細胞できており、あたら さいぼう
新しい細胞が
きたり、ふる さいぼう
古い細胞をこわしたりして、せいちょう
成長したり、へんか
変化したりしているのです。

(監修・保志 宏)

